

国語 第1学年 ことばのたいそう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の9月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

知らせたいことと聞く相手を確認、声の大きさや速さを工夫して伝える。大きい声ほどよいとは判断しない。単元の終わりに残すのは、知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕A話すこと・聞くこと(1)ウ	ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)イ	イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。

単元の目標

姿勢や口形、発声や発音に注意して話せる。相手や伝えたい事柄に合わせ、声の大きさや速さを工夫できる。言葉の働きを確認、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、相手や伝えたい事柄に合わせ、声の大きさや速さを工夫している。（A(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（話・聞②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○知らせたいことと相手を決める。声や速さを変えて試す。	学習状況を見て支援する。
	2 （本時）	○聞き手が受け取った内容を返す。反応を基に伝え方を調整する。	知①・思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：相手や伝えたい事柄に合わせ、声の大きさや速さを工夫できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この相手に聞いてもらうには、どんな速さや声にするとよいですか」 【めあて】知らせたいことと聞く相手を確認、声の大きさや速さを工夫して伝える。 〈予想される児童の反応〉 ・ 近くの友達なら大声はいらない。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「この相手に聞いてもらうには、どんな速さや声にするとよいですか」 知らせたい事柄を決め、相手との距離を確認する。声の大きさや速さを変えて話し、聞き手は聞き取れた内容と聞き取りにくかった所を返す。話し手は口の開き方や姿勢も試し、反応を受けてもう一度伝える。発声が難しい児童は機器や代読で伝え方を選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・ 近くの友達なら大声はいらない。 ・ 大事なところはゆっくり言いたい。 ・ 聞く人を見て話すと伝わったか確かめられる。	教師が短い独自の学校内のお知らせを声量や速さを変えて示す。聞き手は聞き取れた内容を返し、話し手はその反応で工夫する。発声が難しい場合は機器や代読を使い、伝え方の選択を評価する。 想定するつまずき：発表の内容を丸暗記させる、全員に同じ大声を要求する。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手や伝えたい事柄に合わせ、声の大きさや速さを工夫している。（発言と学習記録） ◎知① 姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ）（使った言葉・音読や表記の確認）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 聞く人を見て話すと伝わったか確かめられる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確認する。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「この相手に聞いてもらうには、どんな速さや声にするとよいですか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書き

で右から左に学習の順をたどる。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、発表の内容を丸暗記させる、全員に同じ大声を要求する。この場合は、教師が短い独自の学校内のお知らせを声量や速さを変えて示す。聞き手は聞き取れた内容を返し、話し手はその反応で工夫する。発声が難しい場合は機器や代読を使い、伝え方の選択を評価する。おおむね満足できる状況は、相手や伝えたい事柄に合わせ、声の大きさや速さを工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

知らせたい事柄、相手、試した声や速さ、聞き手の返答による修正。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（1年）「1年上巻」113行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/088f2846-983b-455d-b185-6c3a18a27671/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

